来たれ、後輩達！　感激ある漁業現場の紹介

伊根浦漁業株式会社　諏訪雄太

（平成 24 年度漁業研究グループ等発表交流会発表）

１　地域と漁業の概要

私の所属する伊根浦漁業株式会社は、伊根町の伊根地区にあります。伊根地区は、日出、高梨、亀山などの 8 つの集落からなり、世帯数は 349 世帯、981 名、漁協組合員数は 229 名です。伊根浦漁業株式会社の営む大型定置網の他には、釣り・延縄、小型定置、刺し網、水視漁業が営まれており、ブリなど魚類の養殖も営まれています。

２　活動グループの概要

伊根浦漁業株式会社は漁協合併の中で平成 15 年に設立され、翌 16 年 1 月に当時の伊根漁業協同組合の所有する大型定置網 3 ヶ統の経営を引き継ぎました。現在の従業員数は 36 名で、その内 29 名が定置網漁業に従事しています。平成 23 年の生産金額は 3 億 2 百万円でした。

３　課題選定の動機

私は綾部市出身で、漁家に生まれたわけではなく、周りにも漁業関係者がいたわけではありませんでしたが、子供の頃から川で魚捕りに親しんでいたこと、また、あるテレビ番組でマグロ漁を見たことがきっかけとなり、小学生の頃から将来は漁師になりたいと思っていました。

今、漁師になってみて、その苦労や大変さを実感しつつも、喜びの多い日々を過ごしており、「やはり漁業に就業したのは間違いではなかった」と断言できます。魚価安や漁獲量の減少など、確かに厳しい現実にありますが、私の浅い経験を紹介することで、後に続く後輩が出てくれれば大変嬉しく思います。

４　実践活動の状況及び成果

（就業まで）

中学生までは生家の綾部市内で、兄と姉、父母と父方の祖父母の 7 人家族で暮らしていました。多くの自然に囲まれた環境で育ち、近くには上林川が流れ、コイやフナ、ウナギやドジョウ等を捕って遊んでいました。特にアユの友釣りには興味を持ち、中学生の頃にはかなりの腕前であったと思います。

海洋高等学校に進学したのも、海洋工学科の航海船舶コースに進んだのも、漁師への近道と考えたからです。高校時代の一番の思い出は、1 泊 2 日のトロール漁業実習です。網を引き揚げる度にカレイやヒラメを始め多くの漁獲物が上がってくるのにワクワクしました。特にユメカサゴのような珍しい魚が獲れたときは本当に興奮しましたし、腕の細いクモヒトデや一抱えもありそうなエチゼンクラゲが多く入網したときなどは漁業者の苦労を想像しました。

小学生からの漁師になりたいとの思いは一度もぶれることなく、高校 3 年生となり友人達が会社訪問に行くようになっても、私は一社も訪問しませんでした。そんな私に先生は「伊根浦漁業株式会社 に知人がいる。紹介するので、体験に行ってみるか？」と声を掛けてくださいました。当然、私は二つ返事でお願いしました。また、同じように栗田漁業生産組合にも問い合わせていただきました。どちらも定置網漁業の会社で 1 日ずつでしたが、網持ちを体験させてもらいました。網を引き揚げたときに魚が暴れる様子を見て感動し、「私の就職先は絶対に漁師しかない」と改めて感じました。

その後、9 月に伊根浦漁業株式会社から面接の案内があり、吉田社長と大北漁労長に面接していただきました。「体力に自信はあるか」との問いには「自信あります」と答えましたが、「何か聞きたいことはあるか」との質問には「特にありません」と答えてしまい、「ダメかも知れない」と少々不安になりました。しかし、10 月に入ったある日採用通知が届き、これで漁師への道が確実になったと大変嬉しく思ったのを今でも覚えています。

就職にあたっては住居を探す必要がありましたが、私の場合、比較的簡単に伊根町の町営住宅に入居することができました。築 19 年の 2 階建て、6 畳の和室が 2 部屋、フローリングが１部屋にキッチンが付いた３Ｋですが、２階は全く使っていません。現在は彼女を募集中ですので、漁師の奥さんになりたい方は、是非、連絡を下さい。

（現在に至るまで）

私は、海洋高校時代には一級小型船舶操縦士免許しか取得しませんでした。しかし、就職するに当たって必要性を感じ、就職するまでの間に普通自動車運転免許を、就職した後にフォークリフト運転免許と二級海上特殊無線免許を取得しました。無線の免許は比較的楽に取得できましたが、フォークリフトは実技が難しく、受講期間の３日間、昼休みも惜しんで実習に励みました。

ここで、私の 1 日を紹介します。

起床は午前 3 時、朝食を食べて仮眠、出港（今は 5 時 45 分）に遅れないよう家を出ます。

家から港までは原付で２～３分、港から漁場までは約 15 分です。

漁場に着くと落とし網に本船と運搬船の 2 隻の船が取り付き、本船で網を引き揚げていきます。網を引き揚げるにはキャッチホーラーという機械も使いますが、人力によるところも多く、かなり力のいる作業です。全部で 8 台あるキャッチホーラーのうち、私は前から 3 台目を担当しています。魚がはねるほどに網が引き揚げられると、まず、タモで商品価値の高い魚が取り上げられ丁寧に魚槽に移されます。その後、クレーンについたオオダモを用いて全ての魚が取り上げられると、本船は次の漁場に向かいます。当社は 3 ヶ統の定置網を保有していますので、時化などで操業できないとき以外は 3 つの漁場を回った後、帰港します。魚は全て運搬船に積まれ、積み込みが終わると運搬船は魚を下ろしに港へ帰港します。そして、次の漁場へは別の運搬船が向かいます。

本船の帰港は午前 8 時 30 分頃で、漁獲物を水揚げして選別が終わるのが 10 時頃、これで午前の部が終了となります。帰宅して昼食、昼寝などをし、午後の部が始まる直前まで過ごします。午後の部は 1 時 30 分から始まり、主に網の修理や網洗い、網手繰りなどをして、5 時に一日の仕事が終わります。その後が、自分の時間で、就寝の 9 時まで、夕食を兼ねた晩酌や友人との交遊などに時間を費やします。

仕事の休みは、盆（2 日）、暮れ・正月（4 日）と祭（1 日×2 回）の他は、毎月第二日曜日と第四土曜日だけで、後は海が時化て、陸上での作業も出来ないときなどと、サラリーマンに比べると不定期ですが、この仕事を選んだ限り、仕方ないことと割り切っています。

よく「漁師は先輩が恐いだろう、厳しいだろう」と聞かれますが、そんなことはなく、皆、とても優しいと私は思います。確かに、怒鳴られた経験は数え切れないほどあり、今でもたまに怒鳴られます。しかしそれは、巻いたロープの中に足を入れていたり、定置網の側ロープの取り込みのときに近づき過ぎたりなど危険な行為をしたときや、魚槽に獲れた魚を収容するときに投げ入れるなど魚の扱いが悪く商品価値を下げるような行為をしたときであり、怒鳴られても仕方のないときです。船の上は波や風の音やエンジン音などで大きな声を出さないと聞こえないため、知らない人が見るといつも怒鳴っているように思えるかも知れませんが、理由もなく怒鳴られたり、怒られたりすることはありません。

入社した年から給料に加えて、夏と冬のボーナスももらえます。私の場合、給料は家賃の他、水道光熱費、食費、遊興費、被服費などでほとんど全てが消えてしまいますが、ボーナスはほとんど貯蓄しています。

（成果）

伊根浦漁業株式会社に就業してから 5 年、今年の 4 月から曳船である“いね”の船長を任せてもらっています。通常の操業時には本船である“第 18 うらなぎ丸”の一船員ですが、定置網の錨ロープの掃除や落とし網などの洗浄の時には“いね”を操船しています。

錨ロープの掃除には滑車を使います。滑車をロープに通し、船ですばやく引くことで、ロープに付着したホヤやイガイなどがこすり落とされ、きれいになります。また、網洗浄のときには、岸壁横の海に網を沈めたり上げたりするために、岸壁と網船との間に一定の

距離を開ける必要がありますが、船は真横には動かないため、“いね”で船を引っ張って、動かします。

錨ロープの掃除や網の洗浄は、魚が入網しやすくなるよう定置網の形状を適正に保つため、潮流の影響を受けないようにするために不可欠なことです。

このような役割を持つ一隻の船を任せてもらったことに、大きな責任感をひしひしと感じています。

５　波及効果

私の加入により従業員の平均年齢が下がりました。総数 29 名の中に、私を含め 20 歳代が 8 名もおり、会社としても若い力に満ちあふれています。

今はまだ、教えられることも多く、自分が会社や府の漁業に十分に貢献しているとは言い切れない部分もあります。

だからこそ、今の自分にできることとして今回、発表することとしました。私の発表を聞いて漁業に就業する人が一人でも出てくれば、それが波及効果と言えるのではないかと思います。

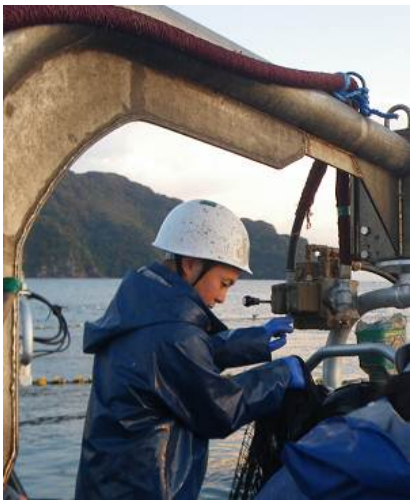
私が自信を持って言える漁業の魅力は、まず、何より魚のおいしさ、そして大漁時の網の中でひしめく銀鱗の輝き、まぐろが入網したときの大きさに対する興奮やくじらが入網したときの黒々とした不気味さ等です。これらは、いつ見てもぞくぞくと背中が震えるほどの感動を覚えます。

６　今後の課題

今、一番の望みは、組合員資格の取得で、取得するには出資金が必要です。就業してから 3 年目に中古の船外機船を購入し、今は 2 代目の船で、時間のあるときには、いかつけやあまだい釣りをしていますが、資格を取得した後は、もんどりかごや延縄、潜水漁業や水視にも挑戦してみたいと思っています。

現在の住居（伊根町　町営住宅）３Ｋ

定置網の操業風景（本船による揚網）



キャッチホーラーの操作

帰港後の出荷準備

網修理

船長を任された“いね”